

地域計画の策定に向けた取組事例

岩手県 花巻市

～岩手県における農地コーディネーターの活動状況～

- 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例
- 農地バンクの関わりと 農地コーディネーターの役割

目 次

- 1 はじめに
- 2 花巻市の農業
- 3 集約化の先行モデル「花巻市 湯本地区」の取組
- 4 農地バンクの関わりと農地コーディネーターの役割
- 5 結び
- 6 参考

○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

1 はじめに

- 令和6年度以降、花巻市の契約更新が大幅増の見込み
→ 農地コーディネーターを2人体制に強化
 - 旧花巻市（平場） ○ 旧大迫・石鳥谷・東和の3町（中山間地域が主）
- 「地域計画」策定の先行モデル「花巻市 湯本地区」の取組
- 地域の主要経営体による意見交換で感じたこと

○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

2 花巻市の農業（その1）

- ・ 岩手県の中西部に位置し、西に奥羽山脈、東に北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野に展開
- ・ 耕地面積 15,700ha、うち 田は 約87%、県の水田の14%強
〔R 4 面積調査〕
- ・ 米を中心に、野菜や果樹、花き等、多様な農業生産を展開



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

2 花巻市の農業（その2）

- ・ 水田営農作物目： 水稻、小麦、大豆、雑穀
- ・ 他の園芸品目： ねぎ、ピーマン、枝豆、りんご、西洋梨、ぶどう、りんどう、トルコギキョウ、小菊など
- ・ 農業産出額： 1,357千万円、うち耕種が8割
- ・ 農業者の減少・高齢化で担い手等への農地集積が拡大（62,7% R5.3月末）
- ・ 営農の効率化、省力化に向け、分散する借受ほ場を経営体間で交換して団地化する「集約化」の推進が急務

○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

2 花巻市の農業（その3）

(1) JAいわて花巻の農家組合が作る「集落営農ビジョン」

- ① JAいわて花巻は、組合員が必要な事業や活動等を決めるため、
集落を単位に「農家組合」を組織
- ② 農家組合ごとに、**組合員が話し合っ**て「集落営農ビジョン」を策定し、
進捗や情勢の変化に応じた**見直しを毎年実施**

(2) 「集落営農ビジョン」支店毎にまとめ「人・農地プラン」に

- ① 花巻市分の「**集落営農ビジョン**」は**154**（令和5年4月現在）
- ② 「集落営農ビジョン」を JAいわて花巻の支店単位で取りまとめ、
16の「人・農地プラン」を策定、実質化も完了

○ 先行モデル「花巻市 湯本地域」における取組事例

3 集約化の先行モデル「花巻市 湯本地域」の取組

(1) 「湯本地域」の取組（その1）

- ① 令和3年度から 農地集約化の取組を本格実施
- ② 法人化の取組と併せ、バンクを通じた農地集積を積極的に進め、中心経営体への集積率 70%超過
- ③ 地域の集落営農組織解散や、農業農業法人の代表の急逝で、地域の今後の農地利用のあり方について急速に危機感が高まる
- ④ 令和3年度、集落内外の担い手が情報交換会実施



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

3 集約化の先行モデル「花巻市 湯本地区」の取組

(1) 「湯本地区」の取組（その2）

- ① ▲ 大規模経営体も、高齢化・人手不足により **規模拡大が限界状態**
- ② ▲ 地域の農地集積が一巡も、地縁・血縁等による借受で**農地が分散錯圃**
- ③ ◎ スマート農業など、**農作業の省力化・軽労化**を積極的に推進
- ④ ◎ 温泉施設等への**地元へのコメの売込み**のほか、**有機農業**にも関心

○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

3 集約化の先行モデル「花巻市 湯本地区」の取組

(2) 「人・農地プラン」から「地域計画」へアップデート

① 令和5年1月31日 **第1回「地域計画」の話し合い**

② ワークショップ形式で開催
／ファシリテーターは市職員

③ 昨(R3)年度からの流れで、
活発に意見交換

④ 地域の農業委員・最適化推進委員
からも意見をいただいた

⑤ 事前に個別打合せを実施
(農家組合長、農業委員、主要な担い手)



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

3 集約化の先行モデル「花巻市 湯本地区」の取組

(3) 役員検討会で新たな「集落営農ビジョン」(案) を検討・作成

① 令和5年7月22日 **下湯本農家組合 役員検討会**

② 「地域計画」の規定事項を追加した新たな「ビジョン」の様式と、現在の「農地利用状況図面」を提供して、経緯や趣旨などを市が説明

③ 「現状図面」を確認しつつ、新たな「ビジョン」を検討し案を決定

④ 農業委員と農地コーディネーターが同席し、真剣な話し合いの様子を見守り



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

3 集約化の先行モデル「花巻市 湯本地区」の取組

(4) 統一賃料目安と目標地図案の検討

① 令和5年8月29日 **第2回「地域計画」の話し合い**

② 法人ごとに事情等が異なり 統一賃料の設定は困難
標準額: 中央値 8千円/10a ± 千円を提案・交渉

③ 約3,500筆の契約期間到来を機に、

②と併せて「農地交換」を検討

④ 契約更新困難な農地を「目標地図」案に表し、
遊休化の虞があれば粗放的管理で荒廃防止



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

4 農地バンクの関わりと農地コーディネーターの役割

(1) 農地バンクの関わり

- ① 「人・農地P」作成説明会、基盤整備勉強会、集落説明会で中間事業を紹介
- ② 市農委主催「農地利用最適化推進検討会」で 農業委員等と情報を共有
- ③ 先行モデル地区の話し合いなどにオブザーバー参加し、生の声を把握

(2) 農地コーディネーターの役割

- ① 「地元ことば」で相手の不審感を解消し、中間事業の調整事務を円滑化
- ② 移動時、「安全運転」による信頼確保 & 「不作付け地」発見で早期対策実現
- ③ 受け手の「経営継続」重視と、出し手の一方的な要求への適正な対応
- ④ 受け手からの農地返還相談や、受け手同士の契約変更への対応に苦労
- ⑤ その他、解決困難な事案への対応

○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

5 結び

- (1) 花巻市と市農委、JAいわて花巻の連携による「地域計画」策定は天晴れ
- (2) 困難な情勢下、地元の期待に応える「湯本地区」の取組に賛辞
- (3) 詳しい内容や地域農業の担い手の生の声は、ぜひ現地でご確認を



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例



○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

（参考）〔主なデータ その1〕

- 岩手県の中西部に位置、総面積 約908km²、人口 約9万3千人、総世帯数 約3万4千世帯、集落数 32014
- 西に奥羽山脈、東に北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野に位置
- 耕地面積 15,700haのうち、田は 13,600haで 約87%を、岩手県の 田 93,500haの14%強を占める〔R4 面積調査〕
- 肥沃な農地で、地域の特色を活かし、米を中心に野菜や果樹、花き等、多様な農業生産を展開

○ 先行モデル「花巻市 湯本地区」における取組事例

(参考) 〔主なデータ その2〕

- 主な作付面積：水稲 7,170ha、小麦 1,090ha、大豆 458ha、そば 79ha
- 他の園芸品目：ねぎ、ピーマン、枝豆、りんご、西洋梨、ぶどう、りんどう、トルコギキョウ、小菊など
- 農業産出額：1,357千万円、うち耕種が1,130千万円（全体の約8割）
- 近年、個別農業従事者の減少・高齢化により、担い手等への農地集積が拡大
- 営農の効率化、省力化に向け、分散する借受ほ場を経営体間で交換して団地化する「集約化」の推進が急務